

# 広尾西墓地の弥陀三尊種子板碑

ひろおにしぼちのみださんぞんしゅしいたび



文化財愛護シンボルマーク

名称	広尾西墓地の弥陀三尊種子板碑	所在地	加古川市志方町広尾1576 広尾西共同墓地内
別称	阿弥陀三尊種子板碑、弥陀三尊種子石棺板碑	管理者	広尾西町内会
数量	1基	指定	加古川市指定文化財
法量	石棺の地上高208cm、幅76.5cm、厚21cm	指定分類	建造物
材質	石造、凝灰岩(竜山石)製	指定名称	弥陀三尊種子板碑
時代	鎌倉時代、正和3年(1314)	指定年月日	平成16年(2004)3月11日



弥陀三尊種子板碑



志方町広尾の中道子山麓、広尾西バス停から北東へ5分ほど歩いたところに後の池があります。その東の奥の広尾西共同墓地に、古墳時代の石棺材を使用して鎌倉時代に彫出した石棺種子板碑が立っています。

板碑とは、死者を供養するために建てられた石製の卒塔婆を意味することが多いのですが、板状の石に仏像あるいは仏像を意味する種子を刻んだものなどを含めた石造品の呼称です。中世に多く製作されています。

この板碑は、凝灰岩(竜山石)製の組合せ式石棺



弥陀三尊種子板碑全景



弥陀三尊種子板碑背面

の底石の右側部分を縦に割り、上部の左右を円弧状に加工しています。底石の内面側に、上段に命点と莊嚴点をつけた真言の冒頭句である<sup>ミ</sup>（オン）、中段に<sup>キ</sup>（キリーク／阿弥陀如来）、下段右側に<sup>サ</sup>（サ／観音菩薩）、下段左側に<sup>サ</sup>（サク／勢至菩薩）の種子をそれぞれ薬研彫りしています。

全体に磨滅しており、種子も見にくくなっています。特に銘文の判読は困難な状態ですが、向かって左側の凹部下方に陰刻され、正和三年(1314)と判読できる部分があります。

石棺種子板碑は、加古川市北部から加西市南部の地域に多く見られます。この板碑は、その中でも最も大きく、鎌倉時代の記年銘のある基準資料として貴重なものです。

この板碑は、平成11年(1999)に藤原良夫氏によってはじめてその資料的価値が確認されました。

(文・写真／宮本)

[銘文]

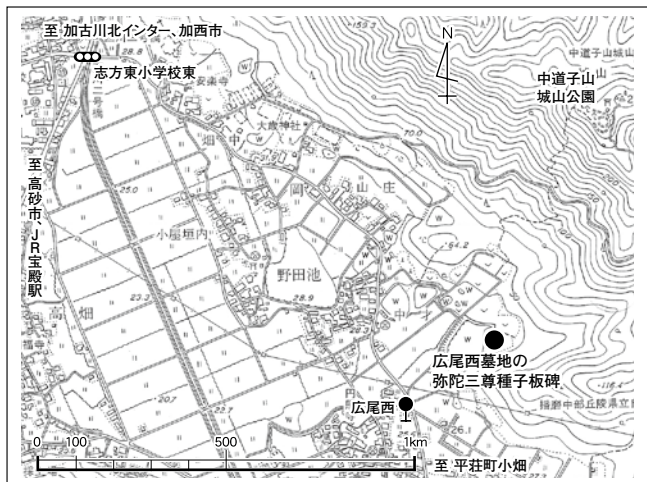
<sup>ミ</sup>  
 (オン)  
<sup>キ</sup>  
 (キリーク)    <sup>サ</sup>  
 (サク)            (サ)  
 正和三歳  
 □ □  
 敬白

●参考文献

- 「新資料・正和3年(1314)弥陀三尊種子石棺仏について」(『東播磨(地域史論集)6』)藤原良夫(1999年)
- 『播磨の石棺仏(図録)』小野市立好古館(2001年)

●キーワード

彫刻、建造物、石仏、板碑、石棺仏、種子板碑、阿弥陀三尊、組合せ式石棺の底石、広尾西墓地



●所在地／加古川市志方町広尾1576  
広尾西共同墓地内

●交通／JR加古川駅発神姫バス「駒の蹄」行「広尾西」バス停から北東へ徒歩7分  
車は山陽自動車道「加古川北インター」から南東へ3 km